

(事後C)

評価委員会総合評価

研究課題名：次世代リモートセンシングに関する研究

評価委員

委員長：瀬上 哲秀

委員：三上 正男、中村 誠臣、齊藤 和雄、露木 義、山田 眞吾、
藤部 文昭、角村 悟、横田 崇、蒲地 政文、千葉 剛輝、井上 卓

評価年月日：平成 25 年 12 月 24 日

1. 総合評価

- ☒ 非常に優れた研究であった。
- ☐ 優れた研究であった。
- ☐ 研究を実施した意義はあった。
- ☐ 失敗であった。

2. 総合所見

C バンド固体素子二重偏波レーダーの技術的課題を解決し、現業化に向けた技術開発を成し遂げたことは高く評価できる。また、GNSS 視線遅延量を用いた水蒸気情報の抽出手法を開発し、大雨の先行情報としての利用可能性を示すことができ、GNSS の先進的な利用技術の開発として高く評価できる。これらは、近年頻発する極端気象の監視・予測に非常に重要な技術的基盤であり、引き続き研究をお願いしたい。

特に、固体素子二重偏波レーダー技術の研究は、本庁業務に大いに貢献し、長官表彰を受けるなど高い評価を受け、非常に優れた成果を上げた。

査読論文は、11 編（うち 5 編が国際誌での主著者原著論文）、投稿中 1 編が投稿された。原著論文数が多いとはいえないものの、関連する研究・技術開発課題との連携にも積極的であり、所期の目的は充分達成したと判断される。

引き続き、次期研究計画での重点研究の副課題としてリモートセンシング観測技術の高度化研究としての発展を期待したい。その際に、フェイズドアレイレーダーを加え、局地的な顕著現象に関する研究の更なる発展を期待する。